

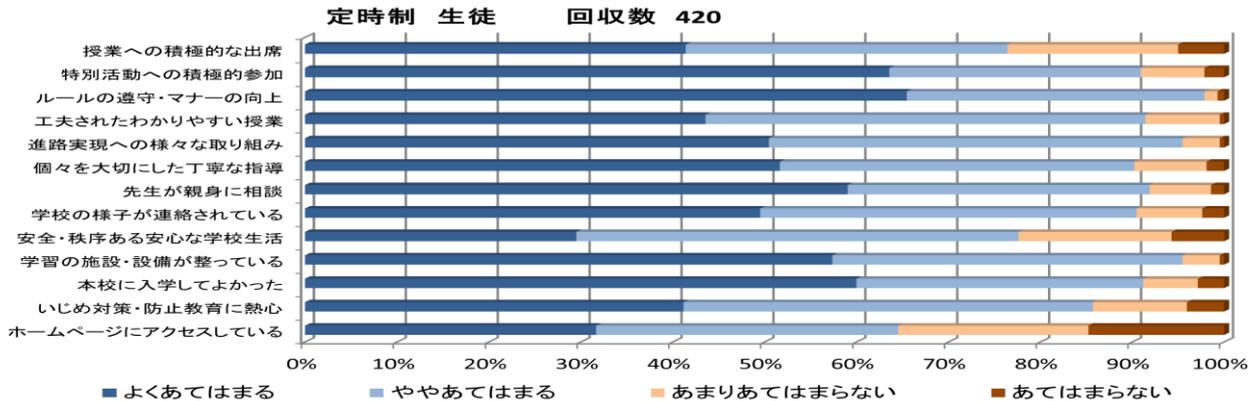
令和5年度 学校評価結果

1 生徒アンケートから

(1) 定時制

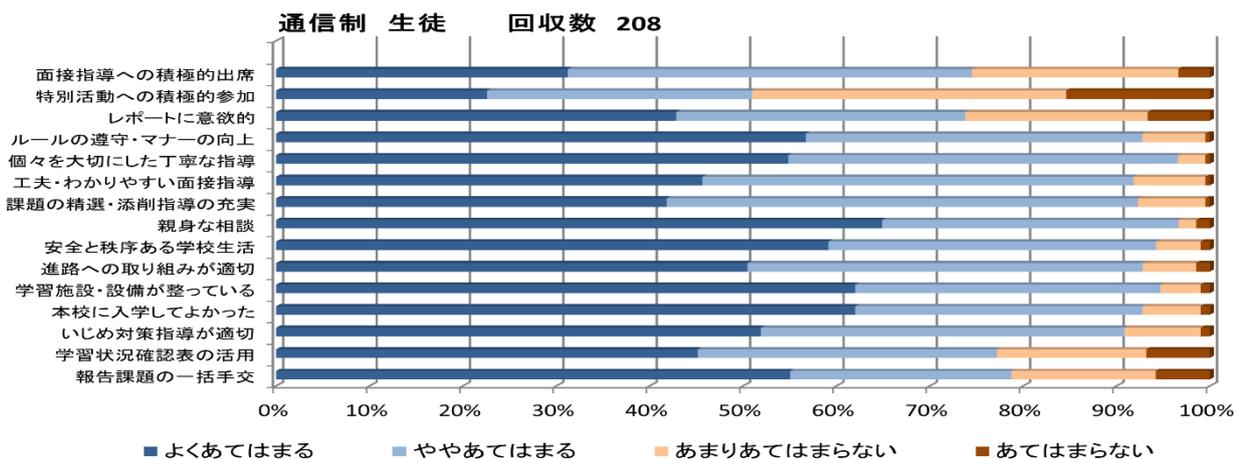
肯定的な評価（「よくあてはまる」・「ややあてはまる」の合計）が、13項目中10項目で80%以上という高い割合で安定している。特に「ルールの遵守、マナーの向上」の項目は、97.9%の生徒が肯定的な評価をしている。これに続いて「学習の施設・設備が整っている」「進路実現への取組」「先生が親身に相談に応じてくれる」「学校生活がよく連絡されている」「わかりやすい授業」「特別活動に積極的に参加している」が90.0%以上の高評価を得ている。また、「生徒一人ひとりを大切にされた指導」といった本校特有の丁寧で行き届いた指導に関わる項目の肯定的な評価も90%を超えており、生徒にとって良好な教育環境が実現していると考えられる。「本校に入学して良かった」についても、前年を3%近く上回り91.2%の生徒が肯定的な評価しており、引き続き一人ひとりを大切にされた指導に努めていきたい。

「ホームページにアクセス」の項目は、肯定的な評価が64.5%に留まったが、前年から3%ほど上昇した。一方、「安全・秩序ある安心な学校生活」に関する項目は、前年から6.5%下降して77.6%であった。また、「授業への積極的な出席」に関する項目も前年から3.2%下降して76.4%であった。ともに、現状の把握と課題の究明を図るなど、改善策を講じていきたい。



(2) 通信制

肯定的な評価が、15項目中10項目で90%以上と非常に高い。令和4年に新たに質問項目に加えた「報告課題の一括手交」と「学習状況確認表の活用」は、ともに前年並みの肯定的な回答が得られた。一方、「レポートに意欲的」は前年から5.1%下降して73.8%であった。「面接指導への積極的出席」は前年とほぼ同じ74.5%であった。しかし、「特別活動への積極的参加」（51.0%）は、前年より3.4%上昇したものの、他の項目と比較すると、著しく低い結果となっている。新型コロナウイルスの「5類感染症」への移行後における特別活動・学校行事のあり方の改善にいつそう努める必要がある。同時に、一人ひとりの特性に配慮した特別活動への参加の工夫もこれまで以上に取り組む必要がある。「入学して良かった」の項目では肯定的な評価が前年を1.8%ほど下回ったが、高い数値（92.8%）を示しており、総じて生徒にとって良い環境が実現していることがわかる。



2 保護者アンケートから

肯定的な評価が80%を超えているのは、定時制では「生徒の成長を育む学校行事が行われている」(88.4%)、「学校の情報発信が適切である」(82.2%)など、9項目中の4項目である。通信制では、「教育相談に関して親切・誠実に対応している」(98.8%)、「いじめ対策の指導を適切に行っている」(95.0%)など、12項目中の11項目である。定時制・通信制ともに、その特色を踏まえた学習指導・進路指導・生徒指導が組織的かつ適切に行われ、その指導の充実を図っていると言える。

特に、保護者との連携に関する項目における肯定的な評価が定時制(91.5%)・通信制(100%)であり、学校に対する信頼の高さがうかがえる。

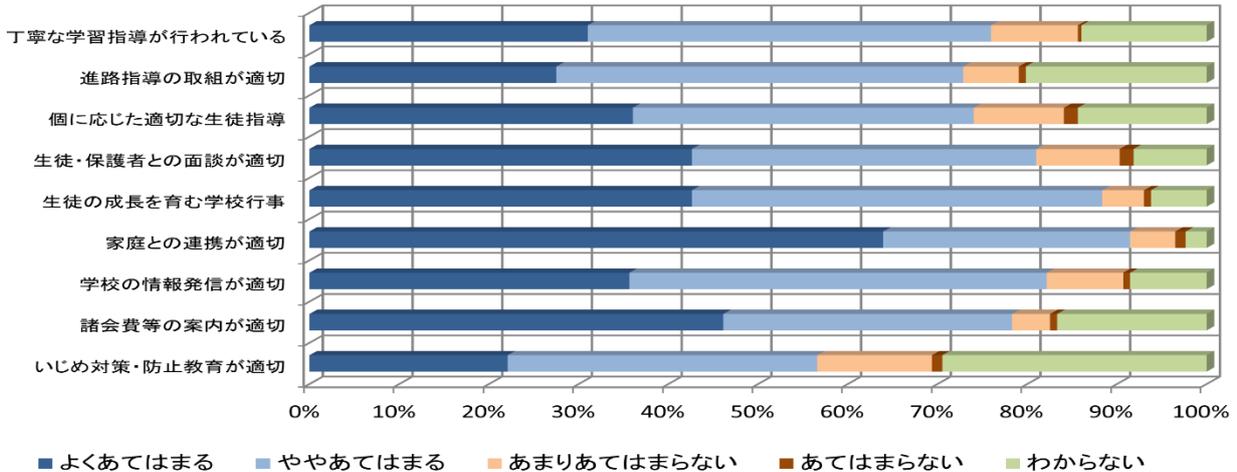
これに対して、定時制で肯定的な評価が80%を下回っている項目は「いじめ対策・防止教育が適切」である。この項目は、昨年の64.9%から8.3%下降して56.6%であった。学校での取組を保護者に理解してもらう必要がある。

一方、通信制で肯定的な評価が80%を下回っている項目は、「学校行事に参加したい」(61.7%)である。この項目は、昨年(57.4%)から4.3%上昇したが一昨年(66.3%)には及ばない。今後も、保護者の来校の機会をさらに増やして教育活動の理解をいっそう求め、その上で、保護者の学校行事への参加を促していきたい。

なお、保護者アンケートの回収率は定時制(50.0%)・通信制(20.1%)であり、生徒の回収率と比べ著しく低い。保護者の意向や関心等を正確に把握するためにも、回収率をさらに高めるための方策を考える必要がある。

総じて、本校の教育活動に対しては、生徒同様に保護者にも支持されており、学校の設置理念との合致が認められる。今後、さらに理解を得られるように、教職員及び保護者が一体となって生徒たちに向き合うよう努めながら教育活動を展開していきたい。

定時制 保護者 回収数 258



通信制 保護者 回収数 81

